



長野県環境保全研究所

スタッフ紹介

4月から生物多様性班鳥類担当として着任した**小林篤**です。

産まれは東京ですが、祖父が飯山市出身のため長野にはよく遊びに来ていました。

長野県との関わりがより強くなったのは大学の卒業研究を始めてからです。私は関東の大学に進学しましたが、卒業研究で当時信州大学に在籍していた中村浩志先生にご指導いただきながらライチョウの研究に携わることになりました。それまでライチョウを見たことがなく、ライチョウが住む高山にも一度も行ったことがありませんでしたが、ライチョウの人を恐れない性質や、その希少な鳥の保全に興味を持ったのがきっかけで長野県の山々を歩き回ることになりました。

その後、ライチョウの個体群研究や保全に関する研究で博士号を取得、環境省でライチョウを始めとする希少種



保全行政を経験してこの度環境保全研究所に着任しました。

昨今の気候変動は人間生活や野生生物まで多様な影響を与えています。特に高山は人が住むような標高が低い地域よりも気候変動の影響が大きいと言われており、今起きている変化を把握し、将来予測をもとに保全策を実施することは広大な山々を有する長野県の責務だと思っています。

研究活動を通し、鳥類を始めとする生物多様性と環境保全を実現できるよう尽力しますので、どうぞよろしくお願いいたします。



こんにちは！今年の5月に着任いたしました、**石澤ほたか**と申します。

出身は新潟県です。とはいっても長野県境まで歩いて行ける距離にずっと住んでいたので、半分以上長野県民だと自分では思っています（笑）

専門は地質学、とくに鉱物学ですが、人間と石のかかわりというところに興味があり、環境保全研究所では棚田の石垣について調査をさせていただいています。

長野県は棚田の多い県といわれています。実際、農林水産省が平成11年に選定した棚田百選には全国134地区の棚田が選定されましたが、そのうち長野県の棚田は16か所と全国最多です。

ですが近年、圃場整備や耕作放棄によって、棚田は数を減らしています。急傾斜地に作られた石垣の棚田については特に、耕作にかかわるコストが高いことや、石垣を作る技術が伝承されなく

なってしまったことにより、多くの場合圃場整備が進んで大きな土壁の水田になったり、耕作をされなくなったりしてしまいました。

しかし、所によっては戦国時代までその歴史をさかのぼれるという石垣の棚田は、先人たちの米に対する執念と努力の結晶だと私は思います。そんな石垣の棚田について、できるだけ現状を記録し、石に関する情報を提供できるように、調べたいと思っています。

